

6年生を対象にした平成28年度の全国学力・学習状況調査は、熊本地震の影響を考慮し、期日を6月1日に延期して実施しました。9月末に結果が届きましたので、下記のとおり結果の概要と今後の対策についてお知らせいたします。

学校では、この結果についてさらに分析・対策等を検討し、児童がそれぞれの力を発揮し、確かな学力がさらに身に付きますよう、今後の学習指導の工夫改善を進めていきます。

調査の対象は、6年生でしたが、出題内容は1年生から5年生までの学習内容であり、また、基本的な生活習慣や学習態度など、小学校でその基礎を身に付けなければならないものが多くありました。ご家庭でもお子様の調査結果や課題等をご確認いただき、今後の学習や生活習慣の向上に役立てていただきますようお願いいたします。

※ この結果は、調査のあった時点での国語、算数の1回だけのテスト結果です。すべての学習状況を表しているわけではありません。この結果を受け、自分のよかったところ、よくなかったところを見直し、今後の学習の参考にしてほしいと思います。学校としても指導方法の工夫改善に生かしていきます。

※ 問題等の詳細は、文部科学省及び熊本県教育委員会のHPを参照してください。

1 調査の目的

- ・ 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ・ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ・ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 本校の学力状況について（概要）

(1) 国語A（基礎的・基本的な内容～主として「知識」に関する問題）

国語Aについては、全体として、全国平均とほぼ同じ（僅かに下回る）結果でした。領域としては、「読むこと」が全国を大きく上回っていました。ただ、「書くこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が全国を僅かに下回り、「話すこと・聞くこと」については、全国を大きく下回っていました。

特に、ローマ字の定着があと一歩でした。ローマ字は3・4年生で学習しますが、その後の学年でも、国語科だけでなく、他教科や総合的な学習の時間などでタブレットPC等を利用したローマ字入力での文章作成の機会を設定したり、外国語活動などで、自分の名前や事物をローマ字で書くなど文字に親しむ機会を増やし、ローマ字が確実に定着できるように指導をしていきます。

(2) 国語Bについて（学習したことを活用する内容～主として「活用」に関する問題）

国語Bについては、全体として、全国平均とほぼ同じ（僅かに上回る）結果でした。領域としては、「読むこと」が全国を大きく上回り、「書くこと」が全国を僅かに上回っていました。ただ、「話すこと・聞くこと」については、全国を大きく下回っていました。

特に、インタビューのメモを作成する際の工夫点やメモをもとにして、話の展開に沿った質問を書くことがあと一歩でした。国語の授業で、文章から読み取ったことや人の話などから、自分の考えをまとめていく場面を適切に設定していきます。

(3) 算数Aについて（基礎的・基本的な内容～主として「知識」に関する問題）

算数Aについては、全体として、全国平均とほぼ同じ（僅かに上回る）結果でした。領域としては、「数と計算」「図形」「数量関係」については、全国を上回っており、特に、「図形」においては、全国より大きく上回っていました。その一方で、

「量と測定」については、全国より大きく下回っていました。

特に、単位量あたりの大きさに関する理解があと一歩でした。この学習内容は、小学校5年生のものですが、異種の2つの量の割合を考える必要があり、児童にとっては難しい内容のようです。今後、関連する問題を学力充実の時間で取り組ませるとともに、図や式などを用いて思考を整理させ、理解が深まるような指導を適切に行っていきます。

(4) **算数B**について（学習したことを活用する内容～主として「活用」に関する問題）

算数Bについては、全体として、全国平均よりやや下回る結果でした。領域では、「数と計算」が全国をやや上回っていましたが、「量と測定」「図形」「数量関係」は、全国を下回っていました。

特に、図形の構成を通して、図形についての理解を深める点があと一歩でした。今後、算数の授業で、図形の性質の理解を深めさせるとともに、問題解決にあたっては、個人思考の場を大切にし、自分の考えを論理的に考察したり、説明したりする場面を適切に設定していきます。

今年度は、昨年度の反省をもとに、国語、算数ともに改善がみられる結果となりました。基礎的・基本的な知識や技能の定着が図られ、学習したことを活用する能力の向上が伺えます。しかしながら、ローマ字や漢字や図形、数量関係などの基礎的・基本的な内容の理解や、文や資料を正しく読み取り、自分の考えを論理的に表現することには課題があります。特に、国語科の「話すこと・聞くこと」については、国語の授業だけでなく、児童の様々な活動を通して、さらに指導を進めていきます。

3 本校の学習や生活のアンケート調査結果について

基本的な生活習慣に関すること、家庭学習や学習に関すること、生活に関すること、地域行事への参加など85項目について調査がありました。

全国及び県と比べて、特徴的なものをご紹介します。

(1) **よかったところ**・・・今後もしっかり伸ばしていきます。

- ①基本的な生活習慣が定着している。(朝食、早寝、早起き)
- ②「学校に行くのは楽しい」と思う児童が多い。
- ③学校で好きな授業があり、特に、算数の勉強が好きである。
- ④地域社会などの地域の行事やボランティア活動に参加している。
- ⑤いじめはどんな理由があってもいけないと思っている。

(2) **考えて欲しいところ**

- ①読書をする時間がとても少ない。読書をしない児童も多い。
→ 現在、朝の読書の充実、図書室の環境整備や学級での読書記録、読書に関する講話など、学校全体で読書活動の推進を進めているところです。
- ②家庭学習の時間が少ない。宿題のみの学習がほとんどで、教科書を使って自学自習をすることが少ない。
→ 「学年×10分+10分」以上を基本に、家庭学習の習慣化とその内容の工夫を進めていきます。
※ 4月配布の「家庭学習のやくそく」「学用品について」（本校HPでも掲載）を参考にしてください。

引き続き、児童を認め、ほめ、励まし、伸ばし、児童に自信と笑顔を増やす平井小学校の教育活動を進めてまいります。今後ご理解とご協力をよろしくお願い致します。